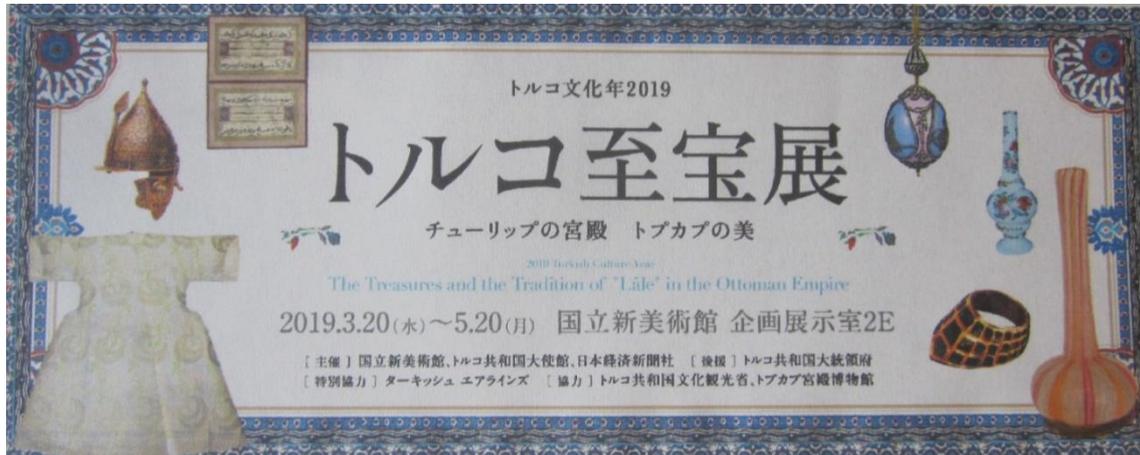


トルコ至宝展 チューリップの宮殿 トプカプの美

国立新美術館 2019.03.20～05.20 京都国立近代美術館 2019.06.14～07.28



「トルコ」は、アジアとヨーロッパにまたがる交易の要地で、多様な文化が入り交わって生まれた“美”は、その比類なき魅力で人々の心を惹きつけ、これまで数多くの芸術家たちにもインスピレーションを与えてきた。

トルコは、オスマン帝国時代には西洋と東洋の接点として広く交易を行い、「宮殿美術館」は世界中の支配地から世にも珍しい献上の品々を集めて国庫を潤した背景を有するため、まさに歴史の最高峰の技術が詰まっているとされる。

本展では、オスマン帝国時代に宮殿として建設され、共和国建国後に博物館となった「トプカプ宮殿」が所蔵する貴重な宝飾品や工芸品、食器や武器、書籍などの貴重な作品「約170点」を展示している。



《射手用指輪》 16～17世紀



《宝飾短剣》 16～17世紀

本展ではオスマン帝国のスルタンと日本の皇室の交流を示す品々のほか、明治期の日本美術品を里帰りさせるなど、2019年の日本は新天皇即位の年であるため、両国の友好関係に光を当てている催事であるとされている。